

横浜港港湾計画 —改訂—

平成18年2月13日
交通政策審議会
第17回港湾分科会

資料4-2



1. 横浜港港湾計画の概要

横浜港への要請

経済発展を支える	→	物流
快適なウォーターフロントの形成	→	交流
環境の保全・再生	→	環境
災害に強い街づくり	→	安全

港湾計画の主な施策

【物流】物流機能の強化

- ①埠頭の再編とコンテナターミナルの機能強化
- ②一般貨物取扱い機能の強化
- ③道路ネットワークの充実に向けた臨港交通施設計画

【交流・環境】魅力ある交流空間形成と港湾環境の整備・保全

- ①身近で快適なウォーターフロントの形成
- ②廃棄物処分場の確保

【安全】安全な港の形成

- ①大規模地震対策施設計画

【物流】物流機能の強化

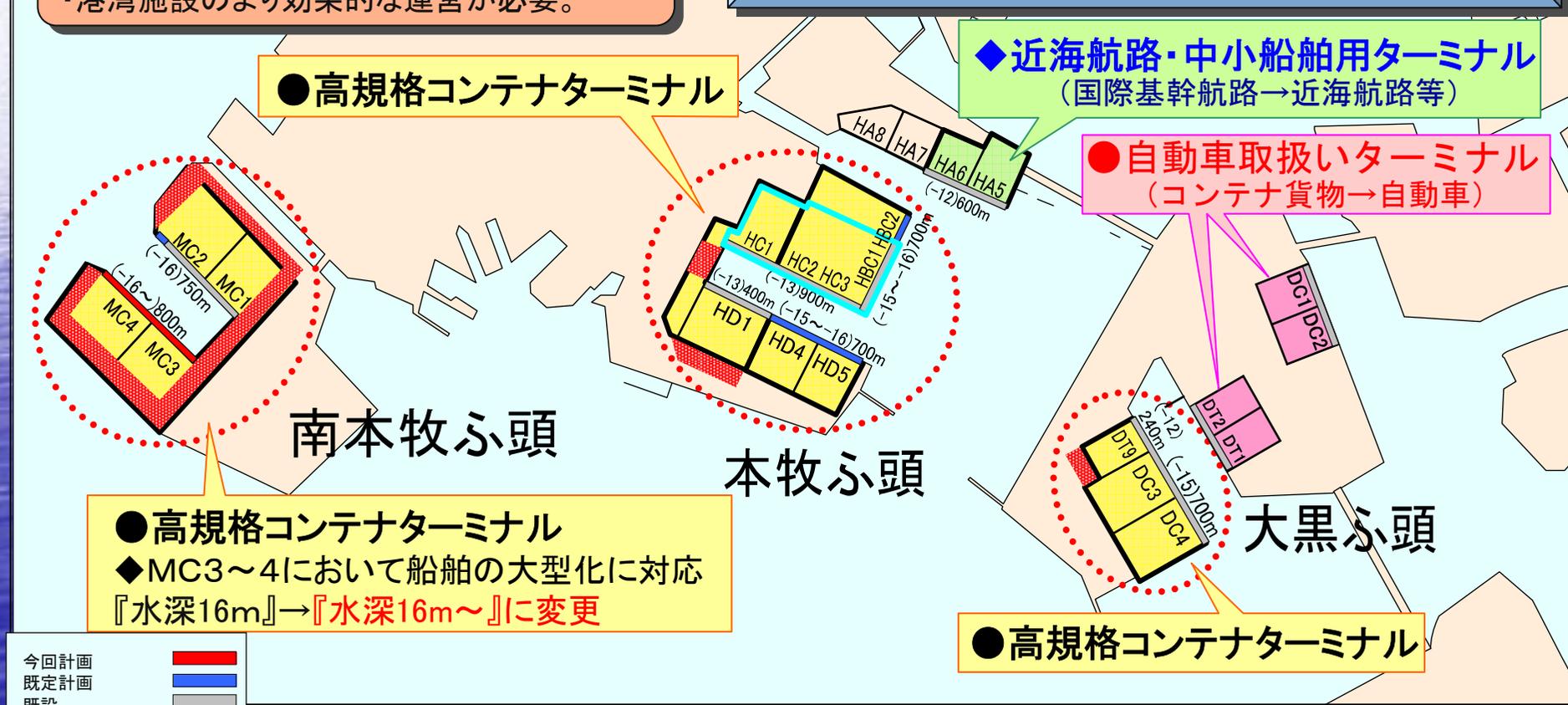
① 埠頭の再編とコンテナターミナルの機能強化

◆課題・背景

- ・アジアを中心とした海上物流の増加及びコンテナ船の大型化等に対応し、国際競争力の強化が必要。
- ・港湾施設のより効果的な運営が必要。

◇対応

- ・埠頭の再編により機能の集約と転換を図る。
- ・コンテナ貨物は「高規格コンテナターミナル」で集中的に取扱う。
- ・大型コンテナ船に対応可能な岸壁を整備。(水深16m～)



●高規格コンテナターミナル

◆近海航路・中小船舶用ターミナル
(国際基幹航路→近海航路等)

●自動車取扱いターミナル
(コンテナ貨物→自動車)

●高規格コンテナターミナル
◆MC3～4において船舶の大型化に対応
『水深16m』→『水深16m～』に変更

●高規格コンテナターミナル

今回計画	■
既定計画	■
既設	■
埠頭用地の拡大部	
効率的な運営を特に促進する区域	

② 一般貨物取扱機能の強化

◆課題・背景

金沢木材ふ頭で、木材取扱船の大型化

◇対応

金沢木材ふ頭の既設岸壁を延伸
(水深-10m, 延長170m) → (水深-10m, 延長230m)



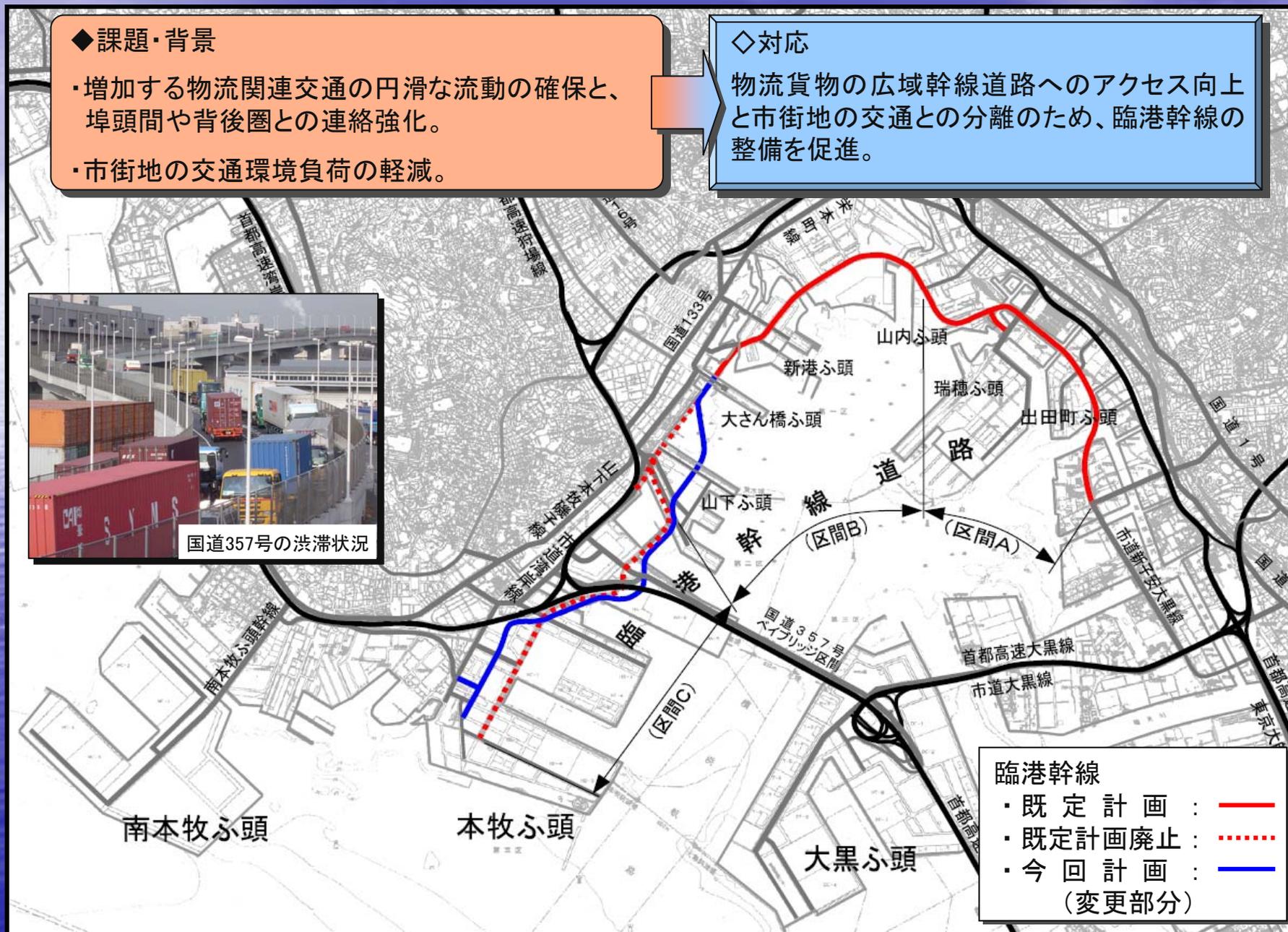
③ 道路ネットワークの充実に向けた臨港交通施設計画

◆課題・背景

- ・増加する物流関連交通の円滑な流動の確保と、埠頭間や背後圏との連絡強化。
- ・市街地の交通環境負荷の軽減。

◇対応

物流貨物の広域幹線道路へのアクセス向上と市街地の交通との分離のため、臨港幹線の整備を促進。



【交流・環境】魅力ある交流空間形成、港湾環境の整備・保全

① 身近で快適なウォーターフロントの形成【交流・環境】

◆課題・背景

- ・身近に親しめる水際線や親水空間の確保の要請。
- ・東京湾再生など、自然環境再生への関心の高まり。

◇対応

- ・市民に開かれた港湾緑地の整備促進。
- ・金沢地区浅場で自然再生の拠点を整備。
- ・流入負荷削減など水質浄化への取組み。

●金沢地区：
浅場における自然再生拠点の整備(今回計画)
「自然的環境を整備又は保全する区域」に指定(今回計画)



② 廃棄物処分場の確保【環境】

◆課題・背景

- ・市内から発生する廃棄物の長期的、安定的処分のため、新たな廃棄物最終処分場の確保が必要。
- ・市内から発生する建設発生土、浚渫土砂についても、安定的な受け入れ場所が必要。

◇対応

南本牧第5ブロックを海面処分用地とする



【安全】安全な港の形成

① 大規模地震対策施設計画

◆課題・背景

- ・大規模地震発生時の切迫性が指摘されている。
- ・災害時の緊急物資輸送のため、海上輸送が重要。
- ・災害時においても国際物流機能の維持が必要。

◇対応

- ・緊急物資輸送用耐震強化岸壁の大幅拡充
- ・物流機能維持用耐震強化岸壁の整備促進

